

東日本学園大学歯学会設立総会

雑誌名	東日本歯学雑誌
巻	1
号	1
ページ	197-202
発行年	1982-12-31
URL	http://id.nii.ac.jp/1145/00006670/

〔学会記録〕

東日本学園大学歯学会設立総会

東日本学園大学歯学会設立総会は、さる7月31日に会員および来賓、招待者約150名が参会し、歯学部476講義室に於て午後1時30分から始められた。

設立総会は井藤教授（庶務理事）の司会で下記の次第により行なわれた。

1. 開会の辞
2. 会長挨拶
3. 設立経過報告
4. 祝辞
5. 閉会の辞

なお、設立総会終了後、直ちに学術講演会が開催され武田正子教授（口腔解剖学第二講座）および金澤正昭教授（口腔外科学第一講座）が特別講演を行い、中村治雄教授（口腔生理学）および岡田泰紀教授（歯科保存学第二講座）がそれぞれ座長を務めた。

会長挨拶、設立経過報告および祝辞は別頁に記載する。

会長挨拶 神澤康夫 会長
（東日本学園大学歯学部長）

設立経過報告 堀越達郎 専務理事
（東日本学園大学附属病院長）

祝辞 渡辺 享
（東日本学園大学理事長）

祝辞 大野精七
（東日本学園大学学園長）

祝辞 安倍三史
（東日本学園大学学長）

祝辞 西風 脩
（北海道大学歯学部長）

祝辞 鈴木伊佐夫
（札幌歯科医師会会長）

ージの内容は省略させていただきます。掲載順不同)

東日本学園大学会頭	佐々木真太郎 様
東日本学園大学学園長	大野 精七 様
岩手医科大学歯学会会長	藤岡 幸雄 様
東京歯科大学学会長	松宮 誠一 様
日本歯科大学歯学会会長	中村 健吾 様
日本大学歯学会会長	佐藤三樹雄 様
神奈川歯科大学歯学会様	
岐阜歯学会長	藤木 芳成 様
旭川医科大学口腔外科	北 進一 様
北海道銀行頭取	森鼻 武芳 様

設立総会当日承認された歯学会役員名は下記のとおりです。

東日本学園大学歯学会役員

会 長	神澤康夫
専務理事	堀越達郎
監 事	中村治雄・秋貞泰輔
庶務理事	井藤信義
委員	金子昌幸・金子久幸・磯貝浩
会計理事	猪股孝四郎
委員	倉橋昌司・王川恭子
企画理事	加藤 熙
委員	馬場久衛・小田島武志・石井英司・伊東由紀夫
編集理事	岡田泰紀・田村 武・奥山富三・市田篤郎
委員	松本仁人・大野弘機・五十嵐清治・村瀬博文

下記の方々から歯学会設立について祝賀電報またはメッセージを戴いた。(電文およびメッセ

会 長 挨拶

会 長 神 澤 康 夫

私が初代会長に選ばれました神澤でございます。

本日の設立総会にご多忙中にもかかわらず西風北大歯学部長、鈴木札幌歯科医師会長を始め多数のご来賓のご来駕を頂き心より厚く御礼を申し上げます。

会長ということで非常に名誉なことと思うと同時にその責任の重大さを痛感致しております。只今学部長職にあり、何かと用務も多く全面的に本学会の総括運営に没入致しかねますが、幸にも学会役員には堀越専務理事を始め優秀な方々がおりますので安心してゐる次第であります。

今日ではいづれの歯科大学、歯学部におきましても、大小の規模の相違はありますが、それぞれの学会をもっております。私立校中最も新らしく発足致しました本学部もこの学会を持つべく努力を致して4年半後の今東日本学園大学歯学会の設立を迎えた訳であります。

ご承知の通り、学会は各会員の研究の成果を発表する場所であり、かつ忌憚のない討論を重ね、どこからも圧迫されない自由な討議が出来る場として各自の研究成果を世に問うことが一番大切な目的であります。

従いまして、今のところ会員数は少ないのですがここで自分の行った研究をあげすけに発表され皆様にお知らせ頂ければ誠に幸いです。

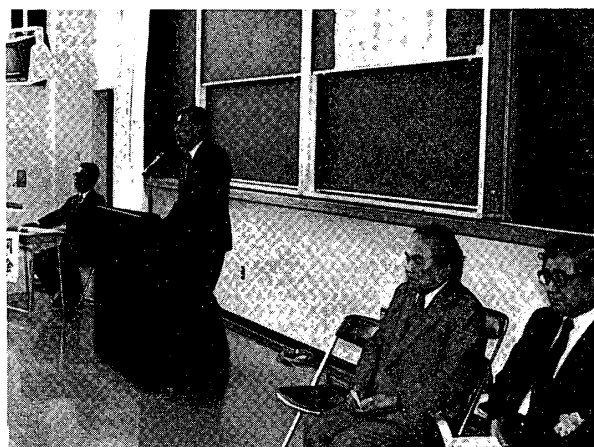
また今後機関誌「東日本歯学雑誌」の発行も計画しておりますので、その研究成果を必ず発表され広く斯界に活動と貢献されることが望まれます。

なおともすれば機関誌のなかには原稿が集まらないから、経済的余裕がないなどから中断するなどよく他学会に見受けられますが、この

ようなことのないよう会員一同一丸となって互に協力し、ご後援を頂き、この機関誌の継続的発行に努めることが最も大切であります。

この新しく誕生した学会の将来を左右するのは会員各位であります。今後とも一層のご活躍の程を願います。

本日の設立総会にあたり私の考えの一端を述べ、皆様の一段のご支援とご努力のもとに本学会の発展を希望して、簡単ながらご挨拶申し上げます。



設 立 経 過 報 告

専務理事 堀 越 達 郎

設立経過の概要につき、御報告致します。本学歯学部教授会においては、将来の大学院開設に備えて、若い研究者と経験豊富な教授達との自由な討論の場を設けること、若い研究者の研究成果の発表を効率的に進めること、また本道内外の各種団体との連携を一層緊密にすることなどを考慮して、学内に独自の研究団体を持つべきであるという事が、2・3年前より論議されておりました。昭和56年1月の教授会において、いよいよ歯学会創設準備作業を開始することが決定され、同時に秋貞、加藤、猪股3教授と私が創設準備委員に指名されました。昭和56年2月には第1回創設準備委員会が開かれ、基本方針として幅広く学内各層の意見を聞き、会員の

皆様のためになり、皆様に生まれ、皆様に誇りを持って頂ける様な立派な学会を作ろうという事で、意見の一致をみました。同年4月には会則の第一次試案が出来まして、学内各層の教員に提示して意見を求め、慎重に検討を進め、3回試案の修正を行いまして、昭和56年10月に漸く会則の原案が整備されました。同年10月末の教授会で討議致しましたところ、全員の諒承確認が得られましたので、早速学長の御校閲を仰ぎましたところ、御諒承の上励ましの御言葉を頂きました。この会則によりますと、専任講師以上の教員を以て評議員とし、評議員の選挙によって理事が選ばれ、理事会が執行部として常時会務の処理に当る建前になっております。会長は、理事会の合議によって推挙することになっております。その後選挙関係の内規を整備致し、さらに教授会の確認を得て57年5月評議員全員による選挙を行いましたところ、猪股、加藤、田村、井藤、岡田、市田、奥山各教授と私が理事に当選致しました。なお秋貞、中村両教授は、理事及び監事の双方に一定の得票がみられましたが、より得票数の高い方の職に御就任頂く方が、選挙人の意志を尊重する意義があるという事で、監事に御就任頂く事になりました。理事会は議長即ち専務理事の互選を行う事になり、協議の結果私が推されました。さらに専務理事を議長とする理事会において、会則第12条に基づき会長の推挙につき慎重審議の結果、歯学部長神澤教授を推す事に決定し、交渉の結果御諒承が得られました。会則第16条によりますと、役員的人事はすべて評議員会の審議を経て、総会において会員全員の承認を得なければならぬ事になっております。しかし今回は学会創設期でもあり、学会はゼロから出発して理事者は当選と同時に速かに会務の執行を開始しなければなりません。そこで一つの便法として、57年6月30日に理事評議員合同の役員総会を行い、会長、専務理事、理事、評議員と各常置委員会

委員のリストを付議検討致し、満場異議なく了承され、直に設立総会の準備にかかる事が承認され、会務の執行が開始されました。その様な次第で一般会員諸氏には、本席で初めて役員への御確認を仰ぐ次第であります。何卒御諒承の上御異議がなければ、拍手を賜わりたく存じます。(拍手多数)学会は本日完全に成立致しました。御協力感謝致します。さて今後の事業計画であります。年2回研究発表会を催し、学会雑誌を年2回発行致す事を当面の方針とし、理事会で決定をみております。この計画によると、1年に240～250万の予算が最低限必要になります。現状では正会員が少いので、会費収入は150～160万円より見込めません。幸に多数の賛助会員の希望者がございますのと、本年は間もなく下半期に入り会誌発行も研究発表も各1回より出来ないと考えられますので、本年に限っては余剰金が出るものと考えられます。来年度以降は速かに財政基盤を確立し、学術会議の定期学術刊行物の承認が得られます様に、会誌年4回発行の線にはやく持って行き度いと存じております。理事長、学長の励ましの御言葉も頂いておりますので、学園当局の助成金の獲得、正会員・賛助会員の増募に努め、速かに学会の財政基盤を確立する事が急務と存じます。一層の御協力をお願い致します。

祝 辞

東日本学園大学理事長 渡 辺 享

今般東日本学園大学歯学会が結成され、本日会員が一堂に会して式典を挙げるにあたり、衷心よりお慶び申し上げます。

大学の使命は教学を通じて新時代が要請する優秀なる人材を輩出し、大方の期待に応えることは今更私の申し述べる迄ありませんが、また研究活動とその専門的分野における成果をも

って教育の実を挙げると共に、実社会に貢献することも必要不可欠な事柄であります。本学に於いて、つとにこの事に着目し、学長・学部長を始め各先生方の熱心な創設準備活動を続けて参った事に就いて、小職は強い関心と期待をかけていた次第であります。

今後この学会の健全なる発展とその実り多き事と会長始め会員皆様の御健勝を祈念し、御祝の言葉と致します。

祝 辞

東日本学園大学学園長 大野 精七

東日本学園大学歯学会設立を心からお祝い申し上げます、今後のご発展を祈念致します。

祝 辞

東日本学園大学学長 安倍 三史

今日はわが大学の歯学会の設立、誠におめでとうございます。心からお祝い申し上げます。ここに至るまでには幾多の曲折もございましたでしょうが、諸先生の大きな御努力が実って今日に至りましたことに深い敬意を表します。神澤歯学部長と堀越病院長を中核として、理事・評議員の方々心が合わせ立派な歯学会をつくられましたが、これを引き金にして、歯学部の教育研究の一層の充実と発展をお祈り致します。今日おいで頂きました来賓の方、北大西風歯学部長、札幌医大口腔外科小浜教授、道歯科医師会の方々、札幌歯科医師会鈴木伊佐夫会長には今後とも宜しく御教示をお願い致します。先輩諸氏の暖かい愛情と友情によりまして我が大学歯学会がいよいよ成長していきますよう願っております。また本歯学会に所属する会員の方々の益々の御研鑽を期待して挨拶と致し

ます。

祝 辞

北海道大学歯学部長 西 風 脩

本日は、東日本学園大学の歯学会の設立に際しお招きいただき、誠に光栄に存じます。北海道歯学会の会員に代り、また、北大歯学部の教職員一同に代りまして、貴歯学会の創設を心よりお祝い申し上げます。

貴学におかれましては、昭和49年に薬学部、53年に歯学部および附属病院を開設され、同年、さらに薬学部大学院を設置されまして、今や歯学部大学院の設置が待たれております。本当の意味の University、複合大学として飛躍的な発展を遂げておられますこと心よりお慶び申し上げます。

先程理事長先生からのお話にもありましたように、大学というところは、深い知識と高度の技術をもった、思いやりのある、倫理感の強い人を世に送り出すところでもあります。また、そのための、10年、20年、30年後の将来に必要な学者、研究者を育てていきまして、高度の学術研究をさらに進めていくという大きな使命が大学にあります。

ある生化学の第一人者とされる方が次のように言っておられました。常識には2つある。1つは common sense で、もう1つは common knowledge である。common knowledge というのは、時代と共に変り行くものである。私達の知識とか技術をさすものであり、運、根、鈍により得られるものである。しかし、それは、生活の単なる手段、あるいは手法にすぎない。それが common knowledge である。一方、common sense は、いつの世にも変らないものであり、人間の行動の原理にかかわる問題であり、または生きていく上での理念と心の問題であり、熱

い人間関係から生まれるものである。そして、common sense なしには common knowledge は存在しないものであって、いや、存在してはいけないものであると結んでおりました。

また、中国の国際交換教授の方が、「中国から優れた留学生を日本に送りますので、よろしくお願いします。優なる字はニンベンに憂と書きます。他の憂を知っている者を送りますのでどうかよろしくお願いします」と言われたそうです。私達の先人は、それを、他を慮る心「やさしい」と読み、それに使命感をもち努力すること、それを「すぐれる」としました。そこに人生があり、人の心があり、人の苦しみがあり、喜びがあり、愛があると思います。

先人は、science を科学と訳しました。科学の「科」は分れる、細分化を意味します。つまり、私達の先人はすでに、今日の科学の細分化を予言していたように思われます。研究が進み、深くなればなる程、ときに横との連繋がとだえがちになります。深い研究は、各専門の研究会、学会において発表され、討議されていくわけですが、統合に欠けます。統合してはじめて、深い研究も、その位置づけが明確となり、世に feed back し、病める方々に対し還元しうるものとなることと思われます。これが貴歯学会設立の所以でもあり、それが大学院における共同研究の場、生涯教育の場へとつながる糸口にもなるものと思われます。

とくに、東日本学園大学の学生さん方がとても礼儀正しいとおききしております。病める人を癒すのだという素地がすでに培われているようにお見受け致します。本当に皆様に、東日本学園大学の教職員の皆様に、心より敬意を表す次第でございます。このような人間性豊かな背景があったればこそ、東日本学園大学歯学会の創設がかくも早期に実現されたものと思われまます。

今後とも、歯科医学の向上ならびに地域医療

への貢献に大いなる成果をあげられますことを、同じ立場にある者と致しまして、心よりお願い申し上げますと共に、本学会の今後益々のご発展を祈念致しまして、祝辞に代えさせていただきます。本日はまことに、おめでとうございます。

祝 辞

札幌歯科医師会長 鈴木 伊佐夫

本来ならば北海道歯科医師会の庄内会長が御挨拶申し上げるところだろうと思いますが、私が御紹介頂きました札幌歯科医師会の鈴木でございます。

きょうは東日本学園大学の歯学会の設立総会ということでお招きを頂きまして、お祝いのごとばを申し上げにきました。本当に私自身も光栄であり、心からお祝いを申し上げたいと思うのでございます。

今この設立経過等をお聞き致しておりますと、数年の間に早急に歯学会を設立されたということと、教授その他の方々が一丸となって大変御苦労なされた中で、この総会を迎えられたということは、これまた御同慶に堪えないことでございます。心からお祝いを申し上げる次第でございます。

また私共札幌歯科医師会におきましても、日頃から東日本の先生方には大変お世話になっておりまして、仕事を通じまして何回かの御講演、御講義などを頂戴致しているところで、この場をお借りして心からお礼を申し上げたいと思います。

歯学部 of 学生、あるいは歯学会において一番悩みの種は、これから歯科界に対してどう取り組んでいくかということがございます。その中でやはり私共と致しましても、卒業研修ということが、これからまず大事な事でありまして、

3年なり4年なりを是非どこかでやって頂きたいというふうに、かねてから歯科医師会の方でいろいろ案を練っていたところでございます。特に日進月歩と申しましょうか。昨今来の医学歯学の進歩が非常にめざましく、これに対応するためにも、やはり卒業後の研修というものが欠かせないものになっております。とくに今日、この一翼を担う歯学会が発足されまして、御立派な教授先生をはじめ御指導をされる先生方が多く、大学の研究生またこれから出ていかれる学生におかれましても、非常に恵まれた環境がつくられるのではないかと羨ましくも思う訳でございますが、このなかからの研究成果は将来我々国民医療にあたる一員として、高度な歯科医療、医療適正化ということに応用し研鑽を積

んでいかなければならないのではないかと考えているところで、本当に本日の歯学会の設立総会は、私と致しましても心から喜んでるところでございます。

只今、西風北大歯学部長のおことばにもございましたように、札幌近郊におきましては歯科に関係した大学が3校ございまして、私共はその中で非常に恵まれた環境にある訳でございます。どうかこの環境のなかに切磋琢磨をしまして、益々この歯学会が発展されますと共に、東日本学園大学の御隆盛を心から祈念を申し上げまして、まずは要を尽くしませんけれども、お祝いのごことばにいたして頂きたいと思っております。おめでとうございました。



特別講演Ⅰ 武田正子教授



特別講演Ⅱ 金澤正昭教授